



狛江市コミュニティ・スクール  
イメージキャラクター  
コミュにゃん

# コミュニティ・スクール通信 NO.10

～ 令和4年度の学校運営協議会～

発行/令和5年3月

発行者/学校教育課

担当/地域学校連携支援マネージャー石谷

狛江市におけるコミュニティ・スクール（CS）の周知と推進を図るため、「コミュニティ・スクール通信」と題して、分かりやすくお知らせします。

## 第三回学校運営協議会を終えて

狛江市は、学校運営協議会を「中学校区を中心としたゾーン」ごとに4つ設置しました。そのことにより、本年から狛江市全小中学校がコミュニティ・スクールとしてスタートしました。

各ゾーンが実施した学校関係者評価アンケートの結果、「狛江の小中学校は今年度からコミュニティ・スクールになったことを知っている」と回答した保護者・地域の方々の割合は、おおむねどの学校も20%でした。

数値的には認知度が高い結果ではありませんでした。それでも、学校運営協議会の皆さんは、それぞれのゾーンで工夫をしながら地域と学校をつなぐ努力と、子どもたちにとって何をすることが良いのかについて考え、議論を重ねる一年を過ごしてくださいました。ここでは、それぞれのゾーンでの話合いから、今年度の成果と次年度に向けての方策を簡単に紹介します。



### 一中ゾーン

<成果>ゾーンとしての連携で、特別支援学級が交流できた。

<次年度に向けて>音楽と特別支援教育の柱を明確にして、具体的な取組みを進めていく。

### 二中ゾーン

<成果>義務教育終了後の地域の子どもの像を考え、二中ゾーンの特色を熟議した。

<次年度に向けて>自然豊かな特色を生かし、具体的な関わり方を整理する。

### 三中ゾーン

<成果>目指す子ども像を確認し、三中ゾーンの従来の特色を生かした具体的な小中合同イベントを実施した。

<次年度に向けて>ゾーンカレンダー作り等、地域で子どもの学びを支える体制作りを進める。

### 四中ゾーン

<成果>ゾーンにより小中連携がさらに進展し、三校で生徒会主体のあいさつ運動を実施した。

<次年度に向けて>教育課程を整理して、特色の重点化ができるようにする。

各ゾーンの共通の話し合いとして、学校評価結果でCS認知度が20%前後だったことを受け、認知度を上げていく方策として、ゾーンの音楽会の実施、保護者・地域向け「ゾーンだより」の発行、ゾーンカレンダーの作成と配布など、様々に考えと配慮を凝らして取り組んでいただきました。

市教育委員会としても、認知度はCSの進展に大切と考え、周知方法を検討中です。